

## ■（２６９）記者も時代の変化を痛感、「夏休みをとれ」と促される昨今

「夏休みはとりましたか」。この時期、よく交わされるあいさつです。記者は忙しくて長い休みなんかとれない、というのがかつての新聞社でした。でも、時代は様変わりです。最近は上司から「とれ」と促されますし、しっかりとるようになっていきます。

それでも誰がいつ夏休みをとるかの調整は至難の業です。東京都内を担当する今の部門では、市区町村単位で管轄を決めています。自治体は基本、お盆休みの期間が休みです。この時期に広報や行事はないので休みをとりやすい期間です。でも、新聞は毎日発行されるので、記者が一斉に休むと、誰も記事を書く人がいなくなります。そこで調整が必要になるのです。互いに仕事をカバーしあう同僚同士で、休みをずらしながら決めていきます。行楽地や道路が混むお盆の時期をずらしたいという希望があれば、場合によっては秋風の吹く９月にとってもらいます。パズルを組み合わせると勤務表ができあがります。

だが、災害や事件などは時期を選んではくれません。せつかくの休みに管内で何かが発生したら仕事に戻るしかありません。私も９月派です。来月の平穏を祈っています。（山）